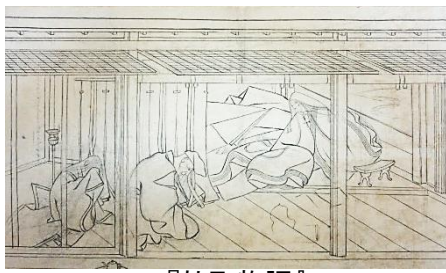


# 記念館新聞

福岡町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福岡町西田原  
1038 の 12  
電話：0790-22-1000



『竹取物語』

竹の中から生まれたかぐや姫は、おじいさんとおばあさんのもとで美しく育ちます。ところが、ある日かぐや姫は自分が月の人間であり、月からお迎えがくると打明けました。

この作品は、月へ帰ろうとするかぐや姫をおじいさんとおばあさんが泣いて引きとめる場面が描かれています。

## 平成28年度 福岡映丘画稿展 ～線で描いた古典文学～

記念館では、4月9日（土）～5月31日（火）まで、福岡映丘画稿展を開催します。

今年のテーマは、「古典文学」です。映丘は、さまざまな古典文学作品の一場面を描いています。

今回は、『竹取物語』や『今昔物語』などを題材とした作品を展示します。

國男も『竹取物語』に関心を持っていました。國男は、『竹取翁』という論文を書いており、『竹取物語』と富士信仰（富士山を神として見立てて信仰する）との関連を考えています。

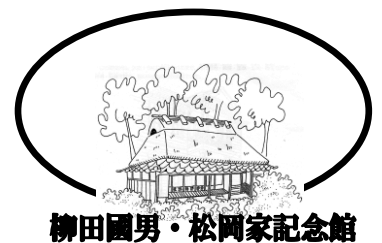
この論文は、『昔話と文学』という本に掲載されています。

『昔話と文学』  
（創元社 昭和13年）

『昔話と文学』は、『桃太郎の誕生』『昔話覚書』とともに、國男の昔話研究3部作といわれています。

國男は、これらの本で昔話が説話の成立にどのようなにかかわったのかを記しています。

## 國男の昔話研究



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間

9時～16時30分

（入館は16時まで）

☆休館日

月曜日、祝日の翌日

12月28日～1月4日

☆入館料

無 料

## 眼科医 井上通泰



その2

井上通泰生誕150年

通泰は、井上家の家業である医者としての道を進み、眼科医となりました。

15歳になる春に、東京に出て予備校に学び、帝国大学医科大学に入学し、勉強をしました。

そして、医者となった通泰は、東京の自宅で医院を開業し、28歳のときに姫路病院の眼科医長として赴任しました。

さらに30歳で、岡山にあった第三高等学校医学部（岡山大学医学部の前身）の教授となり、37歳で辞任するまで、研究生活を送りました。

研究生活の中で、雑誌『眼科新知識』『家庭衛生叢書』『眼科瑣談』が生み出されています。

『眼科新知識』は、眼科の専門知識を得たい人のための雑誌です。

そして、『家庭衛生叢書』は一般の人が衛生上の知識を活用するために発行された本です。

このように通泰は、眼科医として、さまざまな形で医療知識の普及にも携わっていました。

『眼科新知識』  
（明治39年～明治40年）

会場となる柳田國男生家

- ①図書館応援隊 紙芝居グループ  
紙芝居「おれにもらった鯛」  
「春日山城物語」
- ②図書館応援隊 民話かたりベグループ  
民話のかたり「七種新田の怪」  
「かっぱの雨ごい」「おいてけ堀」  
「板坂の地藏堂であった話」
- ③ナルク福岡  
英語で落語「寿限無」

4月9日（土）に、第10回民俗辻広場まつりが、開催されます。

柳田國男生家では、12時から14時にかけて、次の3つの催しが行われます。

ぜひ、ご家族そろってお越しください。

## 館日記